

あなたの空き家は大丈夫？



『空き家』を放っておくと**大変な事**になります

レンガの老朽化により通行人がけが

A君がある住宅街を歩いていると、突然横にあったレンガの塀の一部が落下してきた。幸い頭部の打撲という惨事はのがれたものの、腕に落下したため軽い怪我を負ってしまった。原因は事故を起こした建物の所有者Bさんが離れた場所に住んでいるため、建物を空き家状態で長期間放置し、老朽化に気付かれなかったためでした。

普段住んでいればちょっとした建物の不具合はすぐに気付くのだが…。考えもしなかった理由でBさんは『事故の加害者』になってしまった。



不審火により近隣住宅が延焼

Cさんが所有する空き家の周辺は最近空き巣や窃盗の犯罪が多発していた。そんな中、空き家の近隣に住んでいる方は何度か空き家に不審者が出入りしているのを目撃する。『あそこの家は空き家のはずなのに…』周囲の住民は不審と不安の気持ちが膨らむ。

自治会で空き家の問題が取り上げられたが解決策がみあたらない。『警察に相談しにいくわけにもいかないし…』

不安は的中した。空き家からの出火により近隣が延焼してしまった。原因は浮浪者によるタバコが原因だった。もっと早く何か手をうてなかったのか…。



『空き家』の近隣住民は**こんなに迷惑**している！

平成15年の住宅・土地統計調査によると、空き家の総数は全国で660万戸となり、年々増加しています。

そしてこの流れは今後も変わらないものと思われまます。核家族化、少子高齢化、都心回帰、相続…。これらのキーワードを読み解いていくと、一人っ子同士の子世帯が地価の安くなった利便性のよい都心のマンションに居住する。一方で親から相続した家屋を持って余しているというのが現状ではないでしょうか。しかし今や、空き家は社会問題化しつつあります。空き家を放置しておくと、浮浪者や不審者の侵入及び不審火当の犯罪の遠因になることもありえます。

また家屋は人が住まなくなると急速に老朽化しますが、家屋の破損、飛散等により近隣住民が事故で被害にあう恐れもあります。

このようなケースの場合、自治体にもよりますが所有者に責務を負わせるところもあるようです。空き家を適切に管理することは地域住民の要請であり、地域社会の安全を担う公的機関の要請であると考えています。私たちは空き家を適切に管理することで社会貢献を果たしてまいります。